

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000252		
法人名	有限会社もえん		
事業所名	グループホームもえん		
所在地	佐賀県佐賀市川副町大字犬井道915番地1		
自己評価作成日	平成23年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成23年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの南側には田畑が広がっていて、そこから季節を感じる事が出来る。またボランティアの協力で季節ごとの野菜を栽培し、利用者様と一緒に収穫・調理し楽しみや生きがいを感じてもらう事が出来ている。「笑顔でその人らしく生き生きと」「持つて楽しむフル活用」「自由に自ら生きていく」を理念とし、利用者様一人一人に応じた介護が出来るよう、職員は常に努力している。また家族様との関わりにも努めており、毎月おたよりを出したり、家族会・運営推進会議での情報公開・意見交換を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

佐賀市の南部に位置し、静かな田園地帯の中にあるグループホームである。南側に大きな窓が設けられ、目の前に広がる田園風景を通し、季節を肌で感じられるよう工夫されている。ゆったり、落ち着いた雰囲気の中、利用者一人一人を尊重され、居心地良く過ごせるよう、管理者を含め職員全体で理念のもと取り組まれている。開設後7年を経、家族との信頼関係も構築され、地域での周知度も高く、日常的な交流も図られている。地域の協力も得ながら、ホームの南側に畑を作り、季節の野菜を植え、育てる喜び、収穫する喜び、食する楽しみを、入居者と職員とで共有されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症になっても、住み慣れた地域の中でその人らしく生きていけるよう、理念を基にケアを実践し、理念を目につきやすい場所に掲げ、常に意識付けが出来るよう心がけている。	会議の場、申し送り時等々において振り返る機会が設けられている。また、理念は事務所に掲げられ、ケアの実践の中で迷う場合は、理念に立ち返り確認するよう努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物に出かけ、挨拶を交わしていく事で交流を深めるよう努めている。また地域の行事に参加したり、ホームの行事に参加していただく機会も年々増加している。	ホームの認知度も高く、入居者が地区のゲートボール大会やお祭りへ参加したり、ホーム行事に近隣の住民が参加したりと、日常的に交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居申し込みや認知症に関する相談も増えており、助言や介護サービスの紹介を行っている。又キャラバンメイトとして地域の学校などで「認知症サポーター養成講座」のお手伝い等、積極的に行う様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2カ月に1回開催し、活動状況とサービス提供の報告、意見交換を行っている。そこで出た意見は職員ミーティング等で伝え、サービスの向上に活かしていけるよう努めている。	市や家族、地区の役員のほか、地区住民や他グループホームの管理者の参加もあり、多方面からの意見が得られている。運営推進会議を通して、地区住民から防災協力が得られるようになるなど、ホームのサービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービス提供における問題や課題について、相談し助言や指導を受けている。迅速丁寧に対応してもらっている。	川副ネットワーク、運営推進会議はもとより、日常的に相談や助言が得られるような関係の構築に、日頃から努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の内容とその弊害を認識出来るよう、研修会等にも参加し、拘束しないケアの実践に取り組んでいる。	管理者、職員全体で学習会の場を設け、施錠を含め身体拘束がもたらす弊害について理解すると共に、日々拘束のないケアの実践に取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について研修会に参加したり、事業所内で勉強会を行い、虐待はあってはならない事とし、意識をもってケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会で制度について学ぶ機会をもち、必要に応じ活用できるよう努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明を行い、理解と納得を得る様努めている。また契約内容に変更が生じた場合も同じように対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族には意見や要望がないか尋ね、出た意見に対しては全員で話し合い運営に反映出来る様努めている。	家族会が年に3回開催され、家族だけで交流を図る場を設けるなどし、意見や希望の収集に努められている。また、面会の折や日常の会話の中から、意見や要望等を把握できるよう配慮されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時には必ず意見や提案を聴く機会を設け、運営に反映させるよう努めている。	意見を出しやすい雰囲気作りを心がけ、毎月のミーティングや毎日の申し送りを中心に、意見の把握に努められている。出された意見や提案は全体で話し合い、運営に反映していくよう取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行ったり、個々の努力が処遇に反映出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で学ぶ機会を設け、職員のレベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な研修会に参加する事で、他の施設の方との交流や意見交換を行う事が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者さんの想いを受け止める事が出来るよう、表情や言動を注意深く観察し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より不安な事や相談には十分に話を聞き、思いを汲み取り、安心していただける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のそれぞれの状況を踏まえ、必要に応じ他のサービスの情報を提供する等、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として尊敬しながら、共に喜び悲しみ支え合う事が出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援していくには、家族の協力なしでは困難な事は十分に理解している。家族と職員が同じ思いで本人を支援できるよう、関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等から本人の生活歴等を十分に尋ね、本人に合わせた話が出来よう努めている、また大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れない様努めている。	家族や親類、友人の訪問も多く、その関係が途切れないよう支援されている。また、地元の夏祭りへの参加、馴染みの美容室の利用、孫の嫁入りの見送り等々、入居者一人ひとりの状況に応じて対応していくよう努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人を尊厳し、利用者同士の良い関係を築く為、その時その時の状況を把握し、嫌な思いをされない様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事への参加を呼びかけたりし、継続的に関わるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりを尊厳しその人らしい生活が送れるよう、本人や家族の意向を把握し、プランを作成している。	入居前の生活スタイルを尊重し、家族の希望も把握しながら、一人ひとりの思いの実現に努められている。希望があれば、コンサートへの同行等、細かい対応も行われ、本人本意となるよう検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、また入居されてからも、情報収集に努めている。知り得た情報は全職員が共有し、ケアの統一に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が利用者一人ひとりを常に把握できるよう観察し、記録や申し送りの徹底に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、本人、家族の意向また主治医や職員等関係者の意見やアイデアを反映し作成している。また期間に応じて見直しをし、状況に変化が生じた場合は、都度話し合い本人の現状に即した介護計画作成に努めている。	入居者一人ひとりの担当者を中心に、本人、家族の要望の把握に努め、介護計画が作成されている。定期的見直しや、随時の見直し、評価も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの実践・結果を利用者個別に記録し、全職員が情報を共有し、見直しや新たな立案に生かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	少人数で家庭的な雰囲気を生かしながら、その方の状況に合わせてられるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際は地域のボランティアに協力していただいたり、消防訓練や応急手当の勉強会には、地域の消防署の協力をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿ったそれぞれのかかりつけ医の訪問診療を受けておられ、24時間連絡可能な体制である。	入居者一人ひとりの希望に添い、元々のかかりつけ医や、希望があれば協力医のもとでの受診が行われている。協力医やかかりつけ医とも緊急時を含め、随時連絡可能な体制が取られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約を結んでおり、日常の健康管理や医療支援を受ける事ができている。また疑問点などは都度相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は協力医と一緒に病院に出向き、担当医から現状の説明を受け、情報交換を行ないながら今後の方向性を話し合っている。またその都度かぞくとも連絡をとり、話し合いながら応じている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に指針の説明を行ない、本人や家族に意向を確認している。そして重度化した場合はさらに十分な話し合いを繰り返し、納得のいく方法で、その時を迎える事ができる様努力している。	ホームで出来る事と出来ない事の説明が契約時に行われ、その折に入居者、家族の希望を確認されている。重度化した場合は、医療との連携を図りながら、その都度話し合いの場を設け、その人らしい、納得のいく支援が行われるよう努められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内外で学ぶ機会を設け、いざという時の為の備えに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	勉強会をしたり、地元消防団の協力を得ながら、避難方法を検討している。	消防署や消防団からの協力を得ながら、年2回の火災についての避難訓練が実施されている。地域住民からの協力も得られる関係作りができている。	今後は更に、地域との協力を得ながら、地震や風水害を含めた対応についても検討される事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として接する心がけをおこなうと同時に、常に気を配りながらプライバシーの保護に努めている。	目上の人、人生の先輩として、入居者一人ひとりを尊重するよう日々努力されている。落ち着いた雰囲気の中で、言葉かけや声の高さ、対応等十分に配慮され、プライバシーの保護に努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の進行に伴い表現力や理解力が低下していく為、本人の思いを引き出す事の出来るケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務マニュアルは決めず、入居者のペースを優先し希望に副った対応ができる様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの希望に応じ、行きつけの美容室に行くなど支援している。また好みの化粧水や整髪料を使い、その人らしさの継続に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立決め・買物・調理・味見・配膳・後片付けなど、何らかの形で食事に携わるよう支援している。また畑で栽培している野菜を食べる事で、季節感や食べる事の楽しみを感じてもらえる様努めている。	下ごしらえを中心に、味見や茶碗拭き等、できる範囲での活躍の場が設けられている。南側の畑で収穫した野菜等もふんだんに活用され、職員も一緒にテーブルで食事をとりながら、介助が必要な方にはさりげない支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや食習慣をとりいれながら、栄養のバランスや体調等を考慮し、十分な栄養と水分が摂取できる様支援している。また個々の状態に応じ食事形態や調理法の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じ歯ブラシ・クルリーナ・スポンジ等道具を工夫したり、練り歯磨き・液体歯磨き・ウーロン茶等洗口剤の工夫もしながら口腔衛生に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンや習慣を把握したうえで、定期的にさりげなく誘導したり、トイレで気持ちよく排泄できるよう支援に努めている。	日中の排泄はトイレへの誘導を基本とし、入居者一人ひとりの排泄のパターンを把握し、排泄のタイミングを見計らった誘導が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や、ココア・ヨーグルトなどを毎日摂取してもらったり、運動の働きかけや、落ち着いて廃泄できる環境作りに努めている。また排泄チェック表を用いて一人ひとりに応じた便秘予防対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制である。拒否がある場合は、無理強いせずタイミングが合った時に入浴してもらっている。	希望されれば毎日の入浴も可能である。入浴の時間や順番は、入居者の希望や好みに合わせて対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じた寝具を準備している。睡眠や休息は本人のペースに合わせ、気持ちよく休めるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病気や薬について、勉強会や一覧表で全職員が十分把握できる様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味、また出来る力を把握・見極め、自信や喜びを感じてもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に応じ外出ができるよう支援している。自ら希望されない方にも出来るだけ外出の機会を持つよう努めている。	季節行事、買い物や散歩、ドライブ、帰宅支援等々、機会あるごとに外出できるよう支援されている。重度化がすすみ、外出の機会も減ってはきているが、できるだけ一人ひとりの状態に応じて、外出の機会が持てるよう努められている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自由に買物ができるように支援する体制ではあるが、現在買い物を希望する方はおられない事や、お金を持つ事が不安や混乱の要因になる場合もあり、お金を所持されている方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ対応している。電話の声が聞こえにくかったり、手紙の文字が書けない場合には、代行するなどし支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の南側はほとんどがガラス戸で、そこからは田畑が広がっており、季節ごとの作物を見ることが出来る。またそこから自然の光が充分に入る構造になっている。光の強さもブラインドで調整でき、照明器具は温かみのある電球を使用している。	南側に大きな窓が設けられ、目の前に広がる田園風景を通し、季節を肌で感じられるよう工夫されている。木目を大事にされ、落ち着いた雰囲気作りに努め、思い思いの場所でくつろげるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にもそれぞれの居場所があり、一人の時間や気の合う利用者同士で、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方と相談し、本人が使用していたタンズや鏡台など置き、今までの生活環境との変化が少ないよう工夫している。	一人ひとりの状態や希望に応じ、使い慣れた家具や馴染みの品々が持ち込まれている。入居前の習慣ができるだけ崩れないよう、居心地良い安心できる環境作りに努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子やソファ・トイレ・ベットなど、一人ひとりの身体機能に応じ対応できる様、工夫している。		